

コスモエネルギーグループの ～新連結中期CSR計画～

CSR

経営理念

「わたしたちは、地球と人間と社会の調和と共生を図り、無限に広がる未来に向けての持続的発展をめざします。」

調和と共生

地球環境との調和と共生
エネルギーと社会の調和と共生
企業と社会の調和と共生

未来価値の創造

顧客第一の価値創造
個の多様な発想による価値創造
組織知の発揮による価値創造

連結中期経営計画

コスモエネルギーグループ企業行動指針

第1章

安全で事故のない
企業グループであり続けます

第2章

お客様の信頼と満足に応えます

第3章

人を大切にします

第4章

地球環境を大切にします

第5章

社会とのコミュニケーションを
大切にします

第6章

誠実な企業グループであり続けます

新連結中期CSR計画の方向性とマテリアリティ（重要課題）

環境施策の推進

人権・社会貢献施策の充実

安全施策の徹底

- ・安全操業・安定供給
- ・品質確保

詳細はP51

詳細はP51

施策・実績報告

PDCAサイクル

評価・改善指示

コスモエネルギーグループは経営理念の「持続的発展」を実現するために「コスモエネルギーグループ企業行動指針」に基づき、新連結中期経営計画と連動する形で、新連結中期CSR計画(2018年度～2022年度)を策定しました。新連結中期経営計画の4つの基本方針の一つであるグループ経営基盤の強化に向け、グループ全体でESG(環境施策・人権と社会貢献・安全とガバナンス)の観点でCSR経営を推進、SDGs実現に貢献していきます。





環境施策の推進

コスモエネルギーグループでは、新連結中期CSR計画の重点項目として「環境施策の推進」を掲げています。具体的には「温室効果ガス排出量の削減」「環境汚染物質の低減」「資源循環の取り組み」を重点課題として取り上げ、目標とKPIを設定して環境施策を推進していきます。

Environment

温室効果ガス排出量の削減

長期環境ビジョン2030の策定

新連結中期CSR計画においては、持続可能な社会の実現に向けた国際社会や日本政府の動向との整合性を考慮し、「長期環境ビジョン2030」を策定し、2030年度のCO₂排出削減目標を2013年度比▲200万ton(▲26%)に設定しました。それを達成するため、新連結中期CSR計画の最終年度である2022年度のCO₂削減目標を▲16%(2013年度比)と設定し、CO₂削減に向けた取り組みを積極的に推進していきます。

製油所の省エネルギー活動

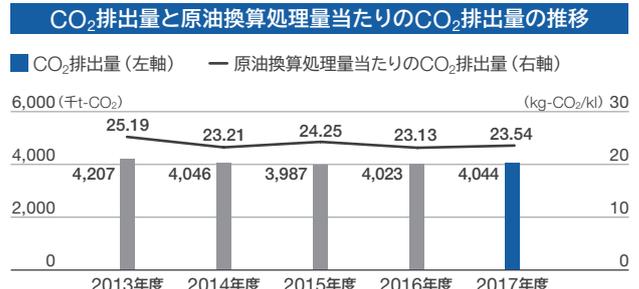
2017年度は、国内石油製品の需給バランスの最適化に向けた、千葉製油所の常圧蒸留装置の能力削減により原油処理量が減少した影響で、原油換算処理量当たりのCO₂排出量の数値は悪化しました。

当社グループでCO₂排出量を最も多く占める製油所では、2018年度も引き続き、ハード面(高効率機器の導入)、ソフト面(運転効率の改善)の両面から省エネに努めています。

	2013	2016	2017	2022	2013年度比
輸送部門(原油・製品)	90	100	94	86	▲4
製造部門(省エネ・効率化含む)	676	645	667	598	▲78
その他(SS・研究所等)	4	3	3	4	0
バイオ燃料(ETBE配合 ^{※1})	▲7	▲14	▲15	▲15	▲8
再エネ拡大(風力発電 ^{※2} 等)	▲16	▲22	▲22	▲46	▲30
					▲120

※1 ETBE混合ガソリン:エネルギー供給構造高度化法のバイオエタノール導入目標量×シェア11%でガソリン燃焼によるCO₂排出削減分を算定。2022年度は2017年度目標(50万kl原油換算)×シェア11%)で算定。

※2 風力発電:総発電量×各年度の電気事業者ごの実排出係数・調整後排出係数等の代替値を用いて算定。2022年度は、2016年度の代替値(0.587kg-CO₂/kWh)を用いて算定。



※2014年度より坂出製油所が物流基地となったため、2013年度までは4製油所、2014年度からは3製油所を集計しています。

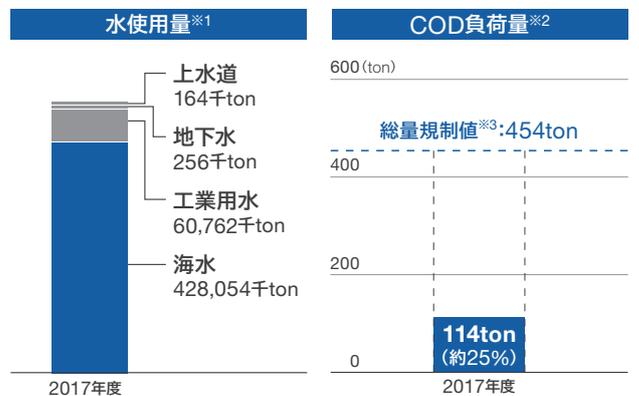
※図に示したほかに、触媒再生塔から一酸化二窒素(N₂O)が19千ton-CO₂eq発生しています(2017年度)。

環境汚染物質の低減

水利用と排水対策(水質汚濁防止)

コスモエネルギーグループの製油所・工場等では、冷却用を中心に洗浄用、ボイラー給水用などに、多量の水(約9割が海水)を使用しています。2017年度は489,237千tonの水を使用しています。そのうち60,762千tonが工業用水ですが、水の回収・再利用など効率的な水利用に取り組んでいます。

また、排水については、海水は冷却水として使用後、海へ放流し、洗浄用等事業プロセスで使用した水は、規制値より厳しい管理値を定めて適切に処理し、環境負荷を最小化して排出しています。2017年度のCOD(化学酸素要求量:水の汚れを表す指標)の負荷量は総量規制値(年間参考値)の約25%という低い水準でした。

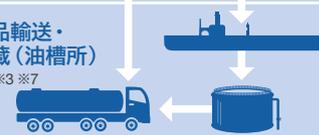
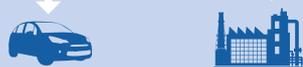


※1 水使用量は、コスモ石油3製油所、四日市霞発電所、コスモ石油ルブリカンツ2工場、コスモ松山石油1工場、丸善石油化学2工場を対象としています。

※2 COD負荷量は、コスモ石油3製油所およびコスモ松山石油工場を対象としています。

※3 総量規制値(年間参考値):規制値は日量で定められ、その上限値に365日を乗じて年間値にしたもの。規制値を一時的に超過した場合、行政に報告するとともに速やかに規制値を下回るよう対策を講じています。

2017年度の事業活動における環境負荷状況

INPUT		事業活動	OUTPUT	
エネルギー 燃料	19,439 TJ	原油生産 ^{※1} 	大気への排出 CO ₂	1,084 千ton-CO ₂
エネルギー 燃料	9,538 TJ	原油輸送 ^{※1} 	大気への排出 CO ₂	652 千ton-CO ₂
石油事業		製造 ^{※2 ※3 ※4} 	石油事業 大気への排出 CO ₂	4,115 千ton-CO ₂
エネルギー 購入電力	4,767 TJ (493,213 千kWh)		SO _x	3,691 ton
燃料	55,398 TJ (1,429 千kl-原油)		NO _x	2,146 ton
用水			排水 排水量	406,803 千ton
海水	399,287 千ton		COD	110 ton
工業用水	39,118 千ton		廃棄物 最終処分量	1,056 ton
地下水	209 千ton			
上水道	155 千ton			
石油化学事業			石油化学事業 大気への排出 CO ₂	2,554 千ton-CO ₂
エネルギー 購入電力	1,350 TJ (139,070 千kWh)		SO _x	745 ton
燃料	44,559 TJ (1,150 千kl-原油)		NO _x	934 ton
用水			排水 排水量	33,434 千ton
海水	28,767 千ton		COD	78 ton
工業用水	21,644 千ton		廃棄物 最終処分量	293 ton
地下水	47 千ton			
上水道	9 千ton			
製品	石油製品生産量 20,636千kl	販売電力 ^{※5} 757,428千kWh	販売蒸気 ^{※6} 4,426TJ	販売CO ₂ 128千ton-CO ₂
エネルギー 購入電力(貯蔵)	119 TJ	製品輸送・ 貯蔵(油槽所) ^{※2 ※3 ※7} 	大気への排出 CO ₂ (貯蔵)	21 千ton-CO ₂
燃料(貯蔵)	214 TJ		CO ₂ (製品輸送)	172 千ton-CO ₂
燃料(製品輸送)	2,492 TJ			
エネルギー 購入電力	445 TJ	販売(SS) ^{※2 ※3} 	大気への排出 CO ₂	22 千ton-CO ₂
燃料	0.4 TJ			
エネルギー 購入電力	102 TJ	消費(製品使用) ^{※5 ※6 ※8 ※9} 	大気への排出 CO ₂ (製品使用)	45,597 千ton-CO ₂
燃料	50 TJ		SO _x (製品使用)	121,407 ton
			CO ₂ (販売電力)	527 千ton-CO ₂
			CO ₂ (販売蒸気)	199 千ton-CO ₂
		研究所・オフィス等 ^{※2 ※3 ※10 ※11} 	大気への排出 CO ₂	9 千ton-CO ₂

※1 「原油生産」「原油輸送」は、(一財)石油エネルギー技術センター(JPEC)の2000年3月「石油製品油種別LCI作成と石油製品環境影響評価」に基づく推計です。
 ※2 「製造」「製品輸送・貯蔵(油槽所)」「販売(SS)」「(コスモ石油販売(株)のデータ)」「研究所・オフィス等」のCO₂は、環境省・経済産業省の「温室効果ガス算定・報告マニュアル」に基いて算定しています。
 ※3 「製造」の石油事業には、コスモ石油(株)の3製油所、四日市発電所、コスモ石油LPリカンツ(株)、石油化学事業には、コスモ松山石油(株)、丸善石油化学(株)のデータを含みます。なお、コスモ石油LPリカンツ(株)のNO_x、SO_xは含まれていません。

※5 販売電力とは、コスモ石油(株)千葉製油所、四日市発電所、丸善石油化学(株)千葉工場から外部供給した電力のことです。「製造」からのCO₂は、この販売電力分のCO₂を差し引いたものとなっています。逆に購入電力分のCO₂は「製造」に含んでいます。
 ※6 販売蒸気とは、コスモ石油(株)千葉製油所、コスモ松山石油(株)、丸善石油化学(株)千葉工場から外部供給した蒸気のことです。「製造」からのCO₂は、この販売蒸気分のCO₂を差し引いたものとなっています。
 ※7 「製品輸送」のCO₂は省エネ法で定める特定荷主を対象としています。
 ※8 「消費(製品使用)」のCO₂では、ガソリンや重油など燃料として使用する製品の出荷量にCO₂排出係数を乗じて算定しています。ほかに販売電力、販売蒸気に起因するCO₂を別集計しています。

※9 「消費(製品使用)」のSO_xは参考値です。製品の硫黄分から算定した潜在SO_x量であり、お客様使用時の脱硫による低減は考慮していませんので、実際のSO_x排出量はこれより低い数値になります。
 ※10 「研究所」には、コスモ石油(株)中央研究所、コスモ石油LPリカンツ(株)商品研究所、丸善石油化学(株)研究所を含みます。
 ※11 「オフィス等」には、当社ならびにコスモエネルギー開発(株)、コスモ石油(株)、コスモ石油マーケティング(株)とエコオフィス活動を共有するグループ会社および丸善石油化学(株)のオフィス等の電気使用量を集計対象としています。

※コスモエネルギーグループの事業活動におけるScope1は、6,227千t-CO₂、Scope2は、493千t-CO₂です。



人権・社会貢献施策の充実～人権・人材

コスモエネルギーグループでは、「人材」を価値創造の源泉と考えます。様々なバックグラウンドを持つ社員たちが多様性を活かして活躍できる職場づくり、より価値を創造しやすい仕組み作りに努めていきます。新連結中期CSR計画では、具体的施策について目標とKPIを設定しました。

ダイバーシティ

多様な人材の活躍

コスモエネルギーグループでは、多様性の実現に積極的に取り組んでいます。様々なバックグラウンドを持つ社員が意欲的に働き、多様な価値観、能力、経験を結集させることで、高い生産性の実現と新たな価値創出をめざしています。多様性の実現に向け、まずは女性活躍を最優先の課題として取り組んでおり、2022年度に女性管理職比率6%、採用女性比率30%（基幹職）の達成を目標としています。



ネットワーキングランチの様子



※管理職とは、部下を持つ職務以上の者、部下を持たなくてもそれと同等の地位にある者を指します。
 ※集計対象となる職種の種類を変更したことに伴い、過年度の女性管理職比率を見直しました。
 ※コスモ石油籍の社員を対象としています。
 ※各年度3月末時点で集計しています。



※コスモ石油籍(基幹職)の社員を対象としています。
 ※各年度3月末時点で集計しています。

2017年度より、女性社員のキャリア意識向上を推進するためにネットワーキングランチを実施しています。様々なタイプの管理職(ロールモデル)を交えた対話の場を設け、キャリア、ワークライフバランス等の不安や悩みを解決しキャリア形成のヒントを得ること、また部門を超えた社内ネットワークを拡げることが目的としています。

また、2015年度より育児休職者がキャリア意識を失わずに復職できるよう「育児と仕事の両立セミナー」の実施や、育児休職中のeラーニング、育児休職前後の面談等を行っています。育児支援として3歳の年度末までの育児休職制度に加え、在宅勤務や短時間勤務、勤務地限定など両立を支援する制度も設けており、各種制度を掲載した「育児ハンドブック」も発行、現在100%である育児休職復職率^{*}の達成継続をめざします。



育児ハンドブック

介護と仕事の両立支援にも取り組んでおり、「介護をしながら仕事を続けること」を考える機会として2017年11月に「仕事と介護の両立支援セミナー」を開催しました。他にも、各種支援制度を掲載した「介護ガイドブック」を作成し社内へ公開しています。



介護ガイドブック

多様性の尊重という観点から、障がい者雇用率の維持向上にも取り組んでおり、2017年6月1日時点の障がい者雇用率は2.36%と法定雇用率を上回っています。配属部署での受入前セミナーや、定着に向けた定期的な面談など、障がいのある方が活躍できるような取り組みを実施しています。

※コスモ石油籍社員、2017年度実績

労働安全衛生

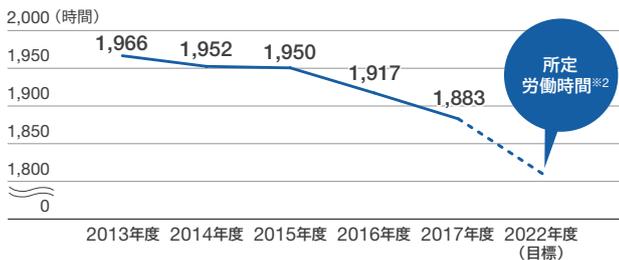
長時間労働の削減

生産性の向上、ワークライフバランスの推進を目的として、労働時間適正化に取り組んでいます。2015年度からは、年間の総労働時間1,900時間を目標として、夜型から朝型勤務への転換(残業加算率の変更)、リフレッシュデー(定時退社)の推進、20時消灯、管理職の人事評価に部下の労働時間実績・改善を反映するなど、様々な施策に取り組んできた

結果、2017年度実績は1,883時間となり目標を達成することができました。

2022年度の総労働時間目標は所定労働時間以下(日勤1,811時間、交替1,826時間)、加えて有休取得率100%をめざし、更なる生産性向上や働き方の変革に取り組んでいきます。

総労働時間の推移



※1 コスモエネルギーホールディングス、コスモエネルギー開発、コスモ石油、コスモ石油マーケティング(コスモエンジニアリング、コスモトレードアンドサービスからの出向受社員を含む)を対象としています。

※2 2022年度は、所定労働時間(日勤者1,811時間、交替勤務者1,826時間)の平均を目標値としています。

年間有給休暇の平均取得日数

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
有休取得日数平均	17.4日	17.7日	18.4日	18.5日	19.1日

※コスモエネルギーホールディングス、コスモエネルギー開発、コスモ石油、コスモ石油マーケティング(コスモエンジニアリング、コスモトレードアンドサービスからの出向受社員を含む)を対象としています。

※勤続年数に応じ、2016年度までは0年(4月入社の場合):15日、1年:17日、2年:19日、3年以降:21日を付与、2017年度以降は0年(4月新卒入社の場合):15日、1年以降21日を付与しています。

人材育成

社員の能力最大化

個々の社員の能力を最大限に活用して少数精鋭の組織を実現するため、人材への投資を積極的に行います。少数精鋭の組織の中で、個々の社員が高い改善意欲とチャレンジ精神を持ちながら、日々成長できるような教育制度を設けています。

人材への投資、社員の改善意識の一つの指標として、2022年度には、社員1人当たり研修費50,000円、自己啓発通信教育の受講率20%をめざしています。



5年目キャリアデザイン研修の様子

新しい教育制度の構築

- ・階層別/職種別/キャリアの3種を柱に構成
- ・財務会計、ITスキルの全社員底上げも検討

職種別研修

職務習熟度
(専門性)を向上

職種ごとの業務体系の整備

- ・職種ごとに必要な知識、スキルマップを整備
- ・OJT、外部研修を活用し、スキルマップに応じて段階的な能力向上を図る
- ・一部部署よりトライアル開始後、順次拡大検討

階層別研修

中計方針と関連の深い
コンピテンシー伸長

+

ビジネス基礎スキル

着目するコンピテンシー

リーダーシップ/主体性/チャレンジ精神/
組織活用/フレキシビリティ など

ビジネス基礎スキル

論理的思考/財務会計/
語学/MBA基礎/IT/対人スキル

キャリア研修

自律的
キャリア形成を支援

キャリアデザイン

- ・入社5年目、55歳を対象に開始済み
- ・女性社員向けの研修もキャリア研修に包含



人権・社会貢献施策の充実～社会貢献

コスモエネルギーグループは、地域を支えるエネルギーインフラとしての役割を担うだけでなく、お客様のカーライフを支え、環境・社会問題に貢献する企業としての取り組みを推進しています。新連結中期CSR計画では、重点課題として「顧客満足」を掲げ、具体的施策について目標・KPIを設定しました。

Social

顧客満足

お客様の満足度向上 ～3つの約束診断～

コスモ石油のSSでは、お客様の“ココロも満タンに”を実現するために、「心地良さ」「安心感」「信頼感」の3つを「お客様との約束」(ブランドプロミス)として取り組んでいます。この「3つの約束」を全てのSSで守り続けることが、コスモ石油のブランド醸成につながり、選ばれる存在になると確信しています。取り組みの確認のため、年に3回外部の覆面調査員による店頭チェックを行い、サービス向上に努めています。

心地良さ

ク린ナップの行き届いた店舗で笑顔と挨拶で対応します。

3つの約束

安心感

品質の確かな商品とサービスを提供します。

信頼感

お客様からのご質問に対し、責任を持ってお答えします。

3つの約束診断 評価「AA」獲得比率向上へ

3つの約束診断の最高評価である「AA」獲得比率は前年度に比べ、4.1ポイント向上しました。向上の要因として「“ココロも満タンに”集合研修」を年に1回、全国の15会場で行っており、研修を通じてSSスタッフの「3つの約束」を守ることへの意識が向上した結果であると考えます。今後も、より多くのお客様の“ココロも満タンに”を実現するために、更に「AA」獲得比率の向上をめざしてまいります。

3つの約束診断 評価の推移



	2016年度	2017年度
■AA	36.2%	40.3%
■AB	12.3%	10.5%
■A-	10.7%	15.7%
■BA	5.1%	2.8%
■BB	4.9%	4.6%
■B-	15.9%	14.8%
■-A	0.3%	0.2%
■-B	0.9%	0.5%
■--	13.7%	10.9%

お客様サポート体制の充実

お客様の声を頂戴するコールセンター「コスモ石油カスタマーセンター」は、24時間年中無休で対応しています。

2017年度は全体で10,997件の問合せ・ご指摘が入り、前年より1,619件増加しました。問合せでは、カード関連が前年より994件増加し、中でもコスモビークルライフアプリへの問合せが500件近く増加し、アプリの効果が窺えました。また一方でご指摘も311件(内287件がSS関連)入り、前年より256件減少しました。引き続き、「“ココロも満タンに”宣言」のもと、お客様にご満足いただけるカスタマー対応に取り組んでいきます。

問合せ・ご指摘件数



	2016年度	2017年度
■カード関連	4,518	5,512
■SS関連	1,998	2,611
■コスモスマートビークル	1,500	1,541
■燃料油・潤滑油	178	170
■広報関連	81	117
■その他	536	735
■ご指摘	567	311

事業を通じた独自の環境社会貢献活動

コスモ石油エコカード基金

コスモエネルギーグループは、環境意識が高くSSのご利用も多いロイヤルカスタマーの方を主な対象とした会員カードとして、環境活動に貢献できる機能を追加したコスモ・ザ・カード「エコ」(以下、エコカード)を2002年より発行しています(会員数6万3千人)。環境意識が高いエコカード会員のお客様と当社グループが、ともに寄付金を拠出してコスモ石油エコカード基金を構成し、気候変動問題を中心としたプロジェクトを世界中で実施しています。2017年度は14のプロジェクトを行い、5万5千本の植林活動や森林保全活動等に取り組みました。気候変動問題の根本には途上国の貧困や教育、経済成長などの社会的な課題があり、エコカード基金が支援するプロジェクトはそれらの課題解決にも寄与している点が大きな特徴です。コスモエネルギーグループは、これからもエコカード会員のお客様とともに世界の社会的課題解決に継続して貢献していきます。



コスモ アースコンシャス アクト クリーン・キャンペーン

2001年に開始した「コスモ アースコンシャス アクト」は、コスモエネルギーグループと全国FM放送協議会がパートナーシップを組み、地球環境の保護を呼びかけていく活動です。この取り組みの一環として、身近な場所で自然と親しみながら清掃を行う「クリーン・キャンペーン」を実施しています。

17年間で延べ670ヵ所を清掃し、252,394名にご参加いただき、総量7,321,332リットルのごみを回収しました。

また、毎年夏には「クリーン・キャンペーンinMt.FUJI」を実施し、アルピニストの野口健さんと全国から集まったボランティアやスタッフ160名で富士山の清掃とエコトレッキングを実施しています。



詳細情報

コスモ アースコンシャス アクト活動スケジュール・報告
 公式サイト <http://www.tfm.co.jp/earth/>
 facebook <https://www.facebook.com/earth.act>

エコカードの仕組み

	お客様がエコカードを持たれると	▶	年間 500円 のご寄付をいただきます。		お客様の寄付
	お客様に10年以上、年間30万円以上ご利用いただくと	▶	年間 1,500円 がエコカード基金に寄付されます。		コスモ石油が寄付
	お客様の給油や洗車で	▶	ご利用金額の 0.1% がエコカード基金に寄付されます。		コスモ石油が寄付
	お客様のエコバッテリーご購入で	▶	ご購入1個につき 50円 がエコカード基金に寄付されます。		コスモ石油が寄付
	お客様のECOオイルご購入で	▶	1L当たり 1円 がエコカード基金に寄付されます。		コスモ石油が寄付

詳細情報

コスモ石油エコカード基金活動報告書2018
<http://ceh.cosmo-oil.co.jp/kankyo/eco/report.html>

コスモわくわく探検隊

コスモエネルギーグループは、経営理念のひとつである「企業と社会の調和と共生」に基づき、様々な社会貢献活動に取り組んでいます。

1993年に開始した、代表的な活動である「コスモわくわく探検隊」は、交通遺児の小学生を対象に夏休みに2泊3日のキャンプを行う自然体験プログラムです。25回目を迎えた2017年度は、交通遺児の小学生46名と社員ボランティア20名が参加。自分たちで切り出した木で作った釣竿で釣りをしたり、磯の生き物の観察などを行うことで自然環境の大切さを学びました。



詳細情報

社会貢献に関するページ
<https://ceh.cosmo-oil.co.jp/phil/index.html>



安全施策の徹底

コスモエネルギーグループでは、新連結中期CSR計画の重点項目として「安全施策の徹底」を掲げています。本来のコーポレート・ガバナンスとは異なる観点で企業価値向上に重要な基盤として、ガバナンス項目に意図的に「安全操業・安定供給」「品質確保」を重点課題として組み入れており、これらの目標とKPIを設定して安全管理体制の強化を推進していきます。

安全操業・安定供給

安全施策の取り組み

コスモエネルギーグループでは、企業行動指針にて第1章「安全で事故のない企業グループであり続けます」を掲げており、2017年度も安全施策に取り組みました。

製油所では、「重大事故(火災、爆発、構外漏洩、大量漏洩、重大労災)ゼロ」を安全目標に掲げ、2017年度は0件を達成しました。他にも休業労災度数率[※]・計画外停止率・入出荷停止日数について管理指標を設定し安全管理を実行するとともに、職場や作業環境の整備・OMS(操業マネジメントシステム)の運用を通じ、安全文化の醸成に取り組んでいます。

[※]「度数率」とは、100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数で、災害発生頻度を表します。

	グループ全体の労災件数							
	2017年度						2016年度	
	総件数		直接雇用社員		協力会社等		総件数	
	休業	不休業	休業	不休業	休業	不休業	休業	不休業
業務上	25	82	5	26	20	56	30	88
通勤途中	3	25	1	20	2	5	1	17
合計	28	107	6	46	22	61	31	105

[※]コスモエネルギーホールディングス、コスモエネルギー開発、コスモ石油、コスモ石油マーケティング、丸善石油化学、関係会社48社含む

事故風化防止と不安全不具合削減の取り組み

コスモ石油では、LPG爆発火災事故の発生日を「コスモ石油安全の日」と設定し、事故の事象・原因・再発防止策などを編集したDVDをグループ全社員が視聴するとともに、各地で安全講演会の開催や記念碑設置など種々の取り組みを行い、継続して風化防止に努めています。

また、発生した不具合について、他製油所への水平展開フォローアップ会議の定期開催などにより不具合再発の削減やOMSの基盤整備により着実に不安全不具合の削減を進めており、結果として2017年度の稼働率向上につながりました。



記念碑設置行事の様子



「安全の日」講演会の様子

品質確保～品質保証体制の強化

コスモ石油ならびにコスモ石油マーケティングでは、「顧客が要望する品質を満たす安全な商品を経済的かつ安定的に供給する」ことを目的に、「CS・品質保証委員会」を設置し、品質保証方針の決定と活動の推進を行っています。両社の「CS・品質保証委員会」は、コスモエネルギーホールディングスの安全・リスクマネジメント委員会と連携し、コスモエネルギーグループとして、品質保証体制を確立しています。

コスモ石油では、2017年度は活動テーマとして「安全・安定供給のための施策の徹底(品質不具合の防止)」「国内外の

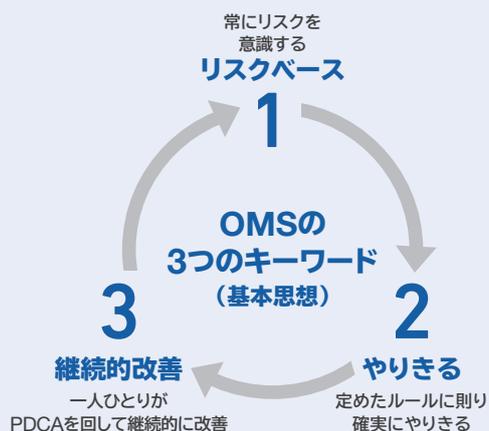
品質基準等の遵守」「トラブル発生時の迅速・適切な対応と原因究明・再発防止の徹底」を掲げて、品質管理活動に取り組みました。2017年度の活動実績は、製油所や油槽所での重大な品質トラブル0件、および不適合品出荷0件を継続中です。

コスモ石油マーケティングでは荷卸し時の作業ミスによる混油事故が3件発生しました。いずれもお客様のご協力と迅速な対応により大事には至りませんでした。このようなトラブルの撲滅に向けて、実際の積荷と積荷データとの確認や、荷卸し時における立会いの徹底など再発防止策を展開しています。

Operations Management System

操業マネジメントシステム

コスモ石油では、世界標準以上の安全操業・安定供給に向けて「Operations Management System」を導入しています。OMSの導入により、操業に関するマネジメントシステムが整い、その基盤の上で安全操業と安定供給の達成、業務の改善、機会損失の回避を達成していきます。



OMS指標の導入

OMS活動は「規則化・マニュアル化」、「教育・訓練」、「定着・実践」、「継続的改善」の4つのステップによって構成されています。この活動の実施状況を把握し、課題に対してタイムリーに対策をとることを目的に2017年度よりOMS指標を導入しました。OMS指標は各要求事項ごとに先行指標、運行指標^{*}を定め、各活動の実施状況を測定します。その結果を関係者全員で共有して成果を実感し、課題に対して適宜対応しています。また、OMS指標そのものの妥当性も定期的に検証し、目標達成に適切な指標に改善しています。

^{*}運行指標：不具合等の実績を示す指標

先行指標：不具合を起こさないために取り組んでいる活動の実施状況を示す指標

OMS監査による業務改善

OMS活動の実行状況を定期的に社内監査し、自事業所だけでは気付けない課題を抽出し改善につなげています。2017年度は本社、千葉製油所、四日市製油所、堺製油所でOMS監査を実施し、合計200件以上の改善案件が発掘されました。



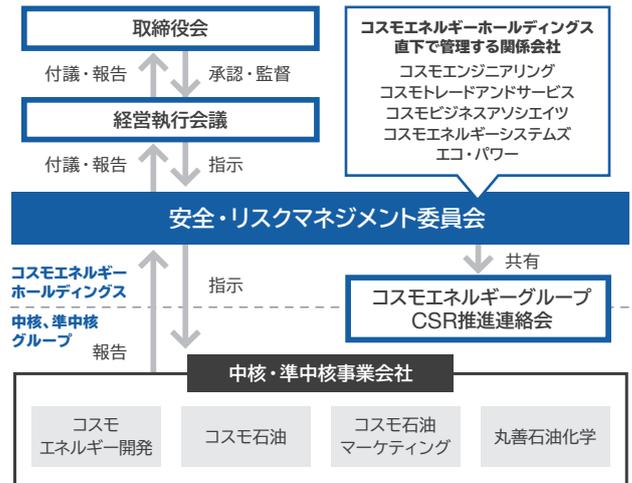
ガバナンス体制の強化

コスモエネルギーグループでは、新連結中期CSR計画の重点項目として「ガバナンス体制の強化」を掲げています。本来のコーポレート・ガバナンスとは異なる観点で企業価値向上に重要な基盤として、ガバナンス項目に意図的に「リスク管理」「コンプライアンス」「CSR調達」「情報開示」を重点課題として組み入れており、これらの目標とKPIを設定してコンプライアンス体制の強化を推進していきます。

Governance

リスク管理

コスモエネルギーグループでは、エネルギーの安定供給への強い使命感のもと、「安全・リスクマネジメント委員会」を年2回開催し、グループ全体に関わるリスクや安全方針の審議、リスクへの取り組みや安全活動の進捗を確認する等、グループにおけるリスクおよび安全管理の充実を図っています。中核3事業会社および準中核事業会社においては、それぞれの事業内容や機能に応じて、「リスクマネジメント委員会」および「安全委員会」を設置し、各社固有のリスクに対する取り組み状況の確認や安全施策の立案、安全活動の進捗管理を実施。リスクマネジメントおよび安全管理活動の確認・改善を行っています。



コンプライアンス～企業倫理推進体制

当社は、コスモエネルギーグループ企業行動指針の推進・実施・確認を行う「企業倫理・人権委員会」、その運営を補佐する「コスモエネルギーグループ企業倫理推進室」を設置しています。「企業倫理・人権委員会」では、社員の倫理観を高めることを目的として、グループ全社員を対象とした企業倫理研修やeラーニング等の様々な施策の立案・実施・評価をしています。

また、社員の法令違反・社規違反等の不正行為および倫理上の問題を匿名で相談・通報できる「コスモエネルギーグループ企業倫理相談窓口(企業倫理ヘルプライン)」を企業倫理推

進室内および社外の法律事務所に設置しています。

更に、2018年度より新たにセクハラ・パワハラ等、職場の人間関係に関する相談窓口として「ハラスメント相談窓口」を社外に設置しました。社員への周知を図るため、相談窓口カードをグループ全社員(約9,000名)に配布しました。

相談・通報の内容と対応については、取締役監査等委員に報告し、コンプライアンス推進活動の継続的な改善を図っています。なお、2017年度の重大なコンプライアンス違反[※]は0件でした。

※当社社内規定に定める最も高い危機レベルに該当する違反、もしくは事故



※2017年度から社内の「ハラスメント・人権相談窓口」を廃止し、企業倫理相談窓口に統合しています。



相談窓口カード



CSR調達

当社および中核3事業会社では、購買活動において、従来の品質、価格、納期、グリーン度評価等を総合的に判断したグリーン購入に加え、反社会的勢力を排除した取引への取り組みを推進しています。新連結中期CSR計画の期間において、

ESGへの取り組みを配慮したCSR調達方針を策定し、広くステークホルダーに開示する他、賛同いただけるサプライヤーと協働することにより、持続的発展をめざします。

情報開示～ESG評価対応

当社は、世界の代表的なESG投資インデックスの一つである「FTSE4Good Developed Index」に2003年に日本の石油会社として始めて採用されて以来、16年連続で採用されています。2017年度は、GPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)が新たにESG投資指数として選定した「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄となりました。また、損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント社(SNAM)がESG評価と株式価値評価

を組み合わせて独自に設定する「SNAMサステナビリティ・インデックス」にも採用されました。



丸善石油化学の品質不適切行為に関する再発防止策について

連結子会社である丸善石油化学株式会社を取り扱う製品において、品質検査に係る試験・分析項目の一部につき、お客様との契約に則った検査がなされていない事実が2018年1月に判明いたしました。

本件につきましては、関係各位に多大なるご迷惑とご心配をおかけし、深くお詫び申し上げます。今後このような事態が再び発生することがないよう品質管理体制の強化を図り、再発防止に努めてまいります。なお、再発防止策は、外部弁護士を交えて設置した丸善石油化学の社内調査委員会による問題の究明および原因分析の結果に基づく再発防止策の提言を受け、丸善石油化学において取りまとめました。

再発防止策

A 会社全体の組織・制度上の要因に対する対応策

全社的な(子会社含む)品質に対する意識の向上およびお客様に対する品質保証体制の充実と関連部門の連携強化を図るため、組織改編を含めた以下の対策を実施する。またコンプライアンスの浸透に向けた風土改善に取り組む。

- 全社(子会社含む)にまたがる品質保証システムの構築
- 千葉工場の品質管理を適切にマネジメントするシステムの構築
- 営業統括室・品質統括グループの役割充実
- 監査体制の充実
- CSR推進体制の強化

B 品質管理課を巡る歴史的・環境的要因に対する対応策

品質管理課内部の体制強化と業務フローの改善等の対策を以下のとおり実施する。

- 品質管理課の体制強化と業務フローの改善

C 品質管理課人員の主観的・属人的要因に対する対応策

主観的・属人的要因による不適切行為を発生させないため、以下の対策を実施する。

- 見える化・見られている意識の形成
- 再発防止策に対応した教育の実施(四日市工場品質検査部門を含めて実施)

詳細は、当社ホームページに掲載のプレスリリース「当社会社における品質検査に関する不適切行為について」(2018年2月2日掲載)、「当社会社の品質不適切行為に関する調査報告書、再発防止策ならびに役員報酬の減額について」(2018年4月4日掲載)をご参照ください。